

診療科のご紹介

腎臓・膠原病内科

腎臓を守る、 膠原病を診る専門内科

左から
まつおか まさと
松岡 雅人
専攻医
やまなかりゅうたろう
山中龍太郎
総合内科部長
はら たかゆき
原 孝行
糖尿病・内分泌内科副部長
かがわ ひでとし
香川 英俊
腎臓・膠原病内科部長
まつばら あい
松原 愛
内科医長
はやし れいか
林 玲加
腎臓・膠原病内科副部長
なかのう ひろゆき
中納 弘幸
医師
きめがさ りょうへい
衣笠 凌平
専攻医



●お仕事に関する相談会のご案内●

仕事を辞めると
決めてしまう前に
今できることは何か一緒に考えませんか？

完全予約制

お気軽に
お問合せ
ください

当院では次のような **就労に関する相談会** を実施しています。

ハローワークの
出張相談
・毎月第2火曜日
14：00～16：00
・完全予約制

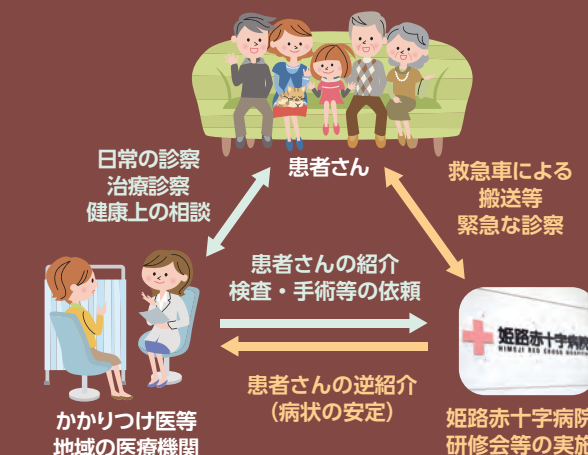
社会保険労務士による
相談会
・毎月第4金曜日
13：30～17：00
・完全予約制

お問い合わせは

お電話または相談支援センター窓口へどうぞ
電話 079-294-2251(代表) 079-299-0037(直通)

＼ 姫路赤十字病院を受診される皆様へ / かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医とは、日常的な健康管理や風邪をひいた時、あるいは体調などに不安を感じた時、慢性期の継続的な治療が必要な時にかかる診療所や医院の医師のことです。入院や専門的な治療が必要な時には、かかりつけ医からのFAX紹介で大きな病院にかかりましょう。



姫路赤十字病院は、「地域医療支援病院」です。

姫路赤十字病院 地域医療連携室

TEL：079-294-2251(代)

腎臓・膠原病内科は、腎臓の病気と膠原病（免疫の異常で起こる病気）を総合的に診療する内科です。

腎臓は、左右の腰のあたりに一つずつある「体のろ過装置」で、血液から老廃物や余分な水分を取り除き、尿として排出する大切な臓器です。腎臓の中には「糸球体（しきゅうたい）」という細い血管の集まりがあり、ここがフィルターの役割を果たしています。

高血圧や糖尿病は、この糸球体の血管を少しずつ傷め、フィルターを詰まらせる原因になります。また、慢性糸球体腎炎や膠原病は免疫の異常で起こる病気で、誤って作られた抗体が糸球体に沈着し、炎症を起こして腎臓を急速に傷めることがあります。蛋白尿や血尿は腎臓のトラブルの早期サインであり、必要に応じて「腎生検（腎

臓の組織をとって詳しく調べる検査）」を行い、診断と治療方針を慎重に決めていきます。

膠原病では、腎臓だけでなく、肺・神経・皮膚・関節・筋肉など全身に炎症が広がることがあります。発熱や痛みだけでなく、放置すると臓器の動きに影響が出るため、早期に診断し、免疫の異常や炎症を抑えて臓器を守る治療が必要となります。

当科では、糖尿病・内分泌内科もあわせた8名が1つのチームとなり、合同回診やカンファレンスを行いながら、患者さん一人ひとりを総合的に診療しています。多くの専門分野が連携することで、より適切な治療につなげられることが当科の大きな強みです。

腎臓・膠原病内科部長 香川 英俊

＜生物学的製剤と分子標的薬とは？＞

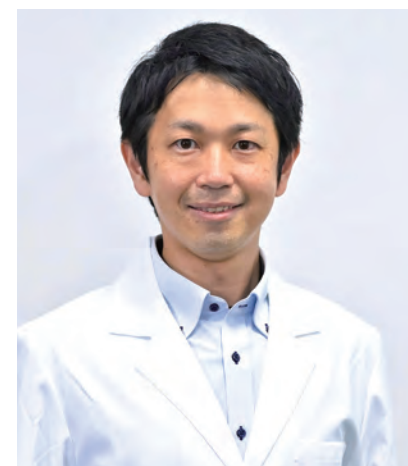
慢性糸球体腎炎や膠原病の根本原因は、まだ完全には分かっていません。しかし、病気の勢いを強める免疫細胞やサイトカイン（炎症を促す物質）の働きは、徐々に明らかになってきました。

これらの働きを狙って抑える薬が「生物学的製剤」や「分子標的薬」と呼ばれます。従来の薬よりも炎症を強く抑えることができ、病気の進行を防ぐ効果が高いのが特徴です。また、うまくいけばステロイド薬や他の飲み薬を減らしたり、中止できる場合もあります。

症状でお困りの方にとって、これらの薬は大変心強い治療選択肢です。治療に興味のある方は、どうぞ遠慮なく主治医にご相談ください。



カーティ CAR-T療法が はじまりました



あさの たける
第二血液・腫瘍内科部長 浅野 豪

CAR-T療法は、患者さん自身の「免疫細胞（T細胞）」を使って、がんを攻撃する、新しいがん治療です。

私たちの体には、細菌やウイルスから守る免疫細胞があります。この治療では、その免疫細胞を「がんを見つけて攻撃できるように強くする」ことが特徴です。当院では血液・腫瘍内科を中心に、看護部、検査技術部、薬剤部、臨床工学技術課、がん診療連携課が一丸となって、新しい治療を提供するために何度もシミュレーションし、仕組みと体制を整えてきました。

今後もチーム一丸となり、患者さんにご家族に寄り添った最新の医療を提供していきます。

01 > 02 > 03 > 04 > 05 > 06

患者さんの血液中の
T細胞を採取する



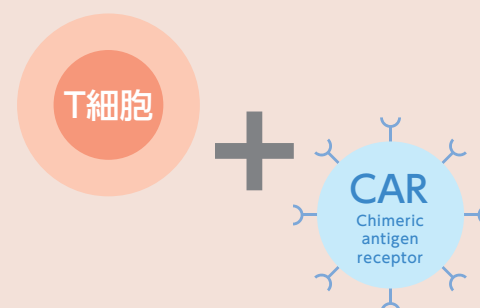
アフレーシスという特別な機器を使って、腕の血管から血液を抜き取り、T細胞を分離・回収します。

アメリカの製薬企業
に送る



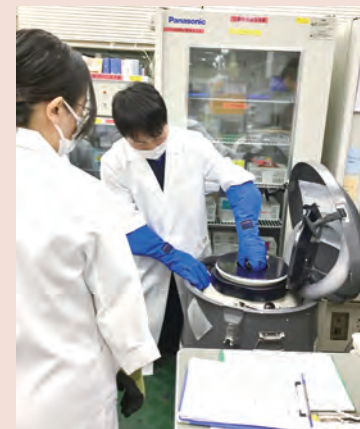
T細胞を凍結し、アメリカの製薬企業に送ります。

T細胞を特別な技術で
「がんを見つける力」を
持つ細胞（CAR-T細胞）に
作り変える



無菌細胞調製施設（製造工場）ではリンパ球の選別、T細胞へのCAR遺伝子導入、CAR-T細胞の培養・増幅が行われます。

姫路赤十字病院に
送られてくる



マイナス150度以下の液体窒素タンクから「CAR-T細胞」を取り出し、解凍します。

CAR-T細胞を点滴で
体に戻す（1回のみ）



体に戻った
CAR-T細胞が、
がん細胞を探し出して
攻撃する



投与後しばらくは副作用が起こりやすいため、約1ヵ月前後入院を継続します。

どんながんに使われているの？

現在、日本では主に
・急性リンパ性白血病
・悪性リンパ腫
・多発性骨髄腫 など、
限られた血液のがんに使われています。

どれくらい時間がかかるの？

リンパ球採取からCAR-T細胞の製造（約1～2ヵ月）、投与、治療後の入院（約1ヵ月）を経て、その後も長期の通院・経過観察が必要です。全体的な期間は数ヵ月からそれ以上かかります。



CAR-T療法のメリットは？

これまで治療が効きにくかった患者さんにも効果が期待できるほか、一度の投与で長く効果が続く場合がある点です。

CAR-T療法の注意点は？

とても強力な治療のため、発熱、血圧の低下、意識の変化などの副作用がでることがあります。
そのため、専門施設でしっかりと管理をして行います。

臨床工学技術課の 「さわやかさん」たち

～「いのちのエンジニア」として
医療機器を通じて高度医療を支える～

臨床工学技術課は、「C E さん」と呼ばれ、現在15名（男性12名、女性3名）のスタッフで構成されています。医師や看護師など多職種と協力しながら、手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、医療機器管理室など、院内のあらゆる現場で生命維持管理装置の準備や操作、医療機器の保守点検を行う「いのちをささえるエンジニア」として日々業務にあたっています。

手術室では、最新の手術支援ロボット「ダヴィンチ」の準備・操作をはじめ、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科で使用するナビゲーション機器の操作支援や、心臓手術における人工心肺装置の操作も担当しています。精密な装置の管理と操作が求められる現場であり、チーム医療の一員として安全で円滑な手術の実施に貢献しています。



集中治療室では、人工呼吸器や急性血液浄化装置など、高度な生命維持管理装置の点検・操作を行っています。安全で安心できる医療機器がいつでも使用できるようにメンテナンスを実施することで、医師や看護師が治療に専念できる環境を整えています。また、新生児集中治療室（NICU）でも人工呼吸器や保育器の管理を行い、繊細な新生児医療を技術面から支えています。

心臓カテーテル室では、心臓カテーテル検査・治療やペースメーカー・埋め込み型除細動器などのデバイス植込み手技に立ち会い、装置の安全な作動を確認します。さらに、緊急時には体外式ペースメーカーやIABP（大動脈内バルーンパンピング）、PCPS（経皮的心肺補助装置）などの生命維持管理装置を迅速に準備・操作し、患者の救命に貢献しています。

医療機器管理室では、24時間体制にて病院内で使用する医療機器の操作やトラブルに対して迅速に対応しています。また、造血幹細胞採取や腹水ろ過濃縮再静注などの臨床業務にも携わり、技術面から医療の質向上に努めています。

このように臨床工学技術課は、院内のさまざまな場所で医療機器の「安全」と「安定稼働」を守ることで、患者さんの命を支える縁の下力持ちとして重要な役割を担っています。

臨床工学技術課 三井 友成



臨床工学技術課



職域のマスコットキャラクター
「シープリン」

各訓練に赤十字救護班やDMATを派遣



巡視船みうら合同訓練



石油コンビナート等総合防災訓練



兵庫県・播磨広域合同防災訓練



赤十字では、「災害」が発生した場合に備え、各関係機関と連携し迅速な救援活動が展開出来るように、様々な訓練に積極的に参加しています。

訓練の実施にあたっては、赤十字本社と協定を結んでいる場合や、兵庫県支部独自で結ぶ団体など、あらゆる場面の赤十字が救護活動に入ることとなっているため、定期的な訓練が求められています。

9月24日には「第八管区海上保本部」巡視船みうら合同訓練が舞鶴港で行われ、埠頭と巡視船の船内を使用した、救護資器材海上運搬、応急救護所対応訓練が行われました。

また、10月9日、瀬戸内海岸沿いの石油コンビナート地帯で、毎年で実施している「石油コンビナート等総合防災訓練」が姫路市のダイセル化学工業姫路製造所で開催され、当院から参加しました。

今年度は、姫路市と兵庫県が合同で訓練企画した「兵庫県・播磨広域合同防災訓練」が11月9日に行われ、JR姫路駅の構内での応急対応と中播磨地域医療福祉調整本部での災害時の活動調整を、受け持ち救護班とDMATが行い、活躍しました。

社会課 大西 勝彦

キティちゃん病棟訪問

9月9日、当院の小児病棟を、サンリオの「ハローキティ」が訪問しました。この活動は株式会社サンリオの社会貢献活動「Sanrio Nakayoku Project」の一環です。キティちゃんが登場した瞬間、病棟内が一気に明るくなり、笑顔に包まれました。病棟のプレイルームに子どもたちが集まり、キティちゃんと一緒にダンスを楽しんだり、記念撮影をして、楽しいひと時を過ごしました。また、移動が難しい子どもたちの為に、各病室にも訪問いただき、素敵なプレゼントをいただきました。今回の訪問では、車いすも寄贈いただきました。寄贈いただいた車いすは、Sanrio Nakayoku Projectオリジナルデザインで、子どもたちも「かわいい」と笑顔でいっぱいになりました。今後、車いすは検査や手術に行く際に利用させていただきます。





看護部だより

患者さんの「良かった」のために

多職種とチーム力で安心できる治療を支えます

7階西病棟 村上 恵美

7階西病棟では呼吸器センターとして主に呼吸器疾患の患者さんを対象に手術、化学療法、検査など呼吸器に関連した治療を行っています。また、消化器外科の化学療法や、血液内科の化学療法なども行っています。手術を受けられる方や長期間の治療を必要とされる方も多く、一人ひとりの不安や負担を少しでも和らげるよう、チーム全員で支援しています。

多職種との連携も大切にしており、治療中の体や心のつらさに寄り添いながら安心して治療に臨

める環境づくりに努めています。

また、退院後の生活を見据えたサポートも重視し、患者さんやご家族の意思を尊重し、その人らしい生活が送られるように支援しています。

スタッフは明るく前向きで、お互いを助け合いながら、患者さんやご家族に「ここに入院して良かった」と感じていただけるような温かい看護を目指しています。これからも呼吸器センター病棟一同、持ち前のチーム力で安全で質の高い看護を提供してまいります。



検査技術部だより

脂肪肝の早期発見へ

脂肪肝と超音波検査

検査技術部 岩佐 恵梨花

脂肪肝ってなに？

脂肪肝とは、肝臓に脂肪が多く貯まった状態をいいます。脂肪肝にはお酒の飲み過ぎによるアルコール性脂肪肝と、食生活・肥満・糖尿病などによる非アルコール性脂肪肝があります。

肥満やメタボリックシンドロームの人が増えることで、非アルコール性脂肪肝の患者さんも増えてきており注意が必要です。

なぜ脂肪肝になると良くないの？

肝臓は「沈黙の臓器」といわれているように、自覚症状がないことがほとんどです。

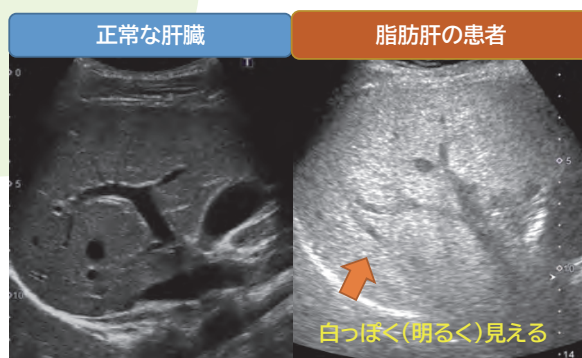
しかし、脂肪肝から慢性肝炎、肝硬変さらに肝臓癌へと進行する可能性があるからです。

脂肪肝と超音波検査

超音波検査は、体に負担の少ない非侵襲的な検査です。

肝臓に脂肪が貯まると、画像上では肝臓が白っぽく（明るく）描出されるのが特徴です。

脂肪蓄積の程度を視覚的に確認できるので、早期発見に有用であり、定期的な検査により治療効果や改善状況をリアルタイムに確認することができます。



さわやかだより

各部・各課のスタッフから健康や医療の情報について紹介します。



薬剤部だより

薬を効かせる冬の工夫

乾燥は薬の敵？

薬剤部 島田 健

冬は空気の乾燥する季節です。空気の乾燥は飛沫の空気中の滞留時間を長くしたり、粘膜のバリア機能を低下させることで感染症の流行にも関与するのですが、お薬の効果にも乾燥が影響することがあるのはご存じでしょうか？

①貼り薬・塗り薬への影響

皮膚が乾燥して皮膚（の角質）が厚くなると、全身への作用を期待するような貼り薬や、保湿以外の効果を期待するような塗り薬は、薬用成分の浸透が悪くなり、効果が弱まる場合があります。⇒保湿剤を併用して皮膚の水分量を保ちましょう。

②吸入薬への影響

気道が乾燥すると、薬剤の粒子が粘膜に十分付着せず、効果が弱まる可能性があります。⇒加湿やうがいなどで粘膜の乾燥を防ぎ、薬効を安定させましょう。

他にも、粘膜の乾燥は点鼻薬や点眼液の効果を弱めてしまうことがあります。寒さの厳しい季節ですが、部屋を暖める際には、併せて加湿を行うこともお忘れなく。



栄養課だより

新しい減塩食のすすめ

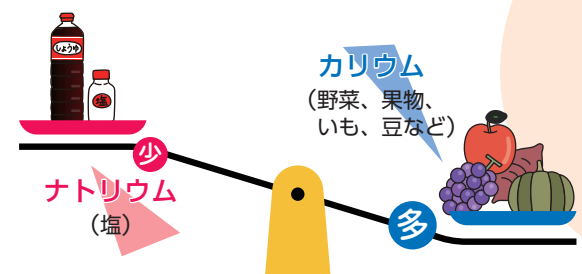
ナトカリ比をご存じですか？

栄養課 塚本 瑛子

2024年10月日本高血圧学会より尿ナトリウム/カリウム比の目標が設定されました。高血圧を防ぐための新指標として注目されており、今後の普及が期待されています。

高血圧など循環器疾患の予防のために、ナトリウム（塩）とカリウム（野菜・果物等）の摂取バランスを整えるという考え方です。

ナトリウムは過剰に摂取すると血圧上昇の原因となります。カリウムは腎臓でのナトリウムの再吸収を抑え、尿からのナトリウム排泄を促します。



減塩食は健康のために重要ですが、日々の忙しさや家族・友人との食事の中で実践や継続が難しいこともあるかもしれません。そんな時にナトリウム（塩）の体外排出を促すカリウム（野菜・果物等）を積極的に摂取し、ナトカリ比の低い食事を心がけてみましょう。

ナトリウムを減らすか、またはカリウムを増やすことで食事のナトカリ比は低くなります。

たとえば…

ラーメン→野菜たっぷりちゃんぽんラーメン

- ・汁を残してナトリウム減
- ・野菜をプラスしてカリウム増

カレーライス+福神漬け→カレーライス+ビーンズサラダ

- ・漬物を控えてナトリウム減
- ・野菜と豆をプラスしてカリウム増

普段の食事→1品野菜料理を追加

- ・野菜をプラスしてカリウム増

他にも調理が難しい場合は無添加のトマトジュースや野菜ジュースを追加してみましょう。



少しの工夫でより健康的な食事を摂ることが出来ます。ぜひ取り組んでみましょう！

※疾患によりカリウムのとりすぎに注意が必要な場合があります。医師と相談しましょう。



リハビリテーションだより

気づこう!「フレイル」のサイン

フレイルについて Part 3

リハビリテーション技術課 岡 智子

今回は「フレイルになると何が問題か？」についてお話しします。

フレイルの状態になると、ストレスに弱くなると言われています。精神的なストレスだけでなく、感染症や外傷へのストレス等にも弱くなります。例えば、健康な人であれば風邪は数日で治りますが、フレイルの状態ではこじらせて肺炎になったり、急さのために転倒や骨折をしてしまう可能性があります。また、入院すると環境変化に対応できずに、せん妄になったり感情をコントロールできなくなることもあります。つまり、軽いストレス（風邪や転倒など）をきっかけに、要介護状態や寝たきりとなってしまうことがあります。

ご存じのように、日本人の寿命は延びてきていますが、健康寿命と実際の寿命との間には約10年の差があるとも言われています。長く生きられるようになっ

た一方で、人生の終盤を不自由な状態で過ごす可能性も増えているのです。フレイルは適切に介入できれば健康な状態に戻ることもできるため、早期発見と対策が大切です。



感動と決意、新たな一歩



看護学校だより

第127回生戴帽式 看護の道への決意

姫路赤十字看護専門学校 山口 陽介

2025年10月24日、本校第127回生の戴帽式が、厳かに執り行われました。式典では、学生一人ひとりが副学校長からナースキャップを戴きました。また、戴帽の決意を胸に、「ナイチンゲール誓詞」を全員で力強く唱和しました。

キャンドルの温かい灯火に包まれた会場は、厳粛な空気の中にも、これからの看護を担う学生たちの希望と感動で満ち溢れているように感じました。

学生からは、「多くの方々から祝福していただき嬉しかった」や「感動が心に残り、これからの学修への意欲が湧いた」といった声が寄せられ、戴帽式が貴重な節目となったこと

がうかがえました。戴帽を機に、今後の目標や理想の看護師像について改めて考える機会にもなりました。戴帽式をはじめ、看護学校での行事や日々の出来事は、姫路赤十字看護専門学校の公式blog及びInstagramにて随時ご紹介しております。ぜひご覧ください。



当院の肝炎対策チームについて

肝炎医療コーディネーターの役割

肝炎医療コーディネーターは、当院のような医療機関の中だけでなく、市町村の保健所・行政職員や企業や団体の健康管理担当者など、様々な場所で活動しています。それぞれの場所・それぞれの立場から、

- ① まだ未受診のため感染に気づいていない人への『**受検**』勧奨
- ② 感染したことを知っていても治療に至らない人への『**受診**』勧奨
- ③ 治療をこれから行う人『**受検**』や治療中断している人への治療の継続支援
- ④ 仕事を継続しながらの慢性肝炎、肝硬変、肝がんの治療の『**支援**』をしています。

肝炎対策チーム 平井 香恵



相談内容に応じて適切なスタッフがサポートします



相の会は、すべてのがん患者さんと家族が対象の患者会です。

『相の会』のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしながらがんと共に生きる力を持ちましょう!」と訴えかけた婦人科の患者さんの思いがはじまりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

患者会を通して

10月は「がんと栄養」をテーマに管理栄養士による勉強会が行われました。その後の振り返りでは、がんだからと言って特別な食事をしないといけないわけではなく、少しずつでもバランス良く栄養を摂ることの大切さや腸内環境の整え方について話し合いました。

後半は、闘病の体験を語り合いました。がん診断時は治療のことに必死で説明書や冊子に目を通す余裕はなく、病による体の不自由さや生活の制限を感じながらも、前向きになれるようなすべを試行錯誤してきたことなどが語られました。

その中で、闘病されている方や医療者に向けたメッセージもありましたので一部ご紹介させていただきます。

「こんな風に、がん患者と心置きなく話せる場、みんなが立ち寄れる場があるのに患者会を知らない人が多くもったいない。当時は余裕がなく目にもくれないけど、もっと早く患者会を知りたかった。」「普段ここまでがんのことを友人や家族に話せるものではない。」「思いを語って楽になってほしいと思っている。」等。

ここでの語り合いがこれからの生き方の支えとなるエネルギーや工夫を見いだせる場所の一つだと思っています。気軽に見学からでもお越しください。

専門相談看護師 嶋屋 智子

「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251代)または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。

